

沖縄県による観光2次交通結節点「北谷ゲートウェイ」の実証事業

沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課/中村俊貴、山田祥子 株式会社オリエンタルコンサルタンツ沖縄支社/佐藤貴行、岸本太幹、浅井慶人、下地沙也加



01 背景・目的

観光2次交通は、長らく沖縄県観光の大きな課題となっている。那覇空港を訪れた観光客の多くはレンタカーを利用し次の目的地へ向かうものの、主要幹線道路では慢性的な渋滞が発生しており、路線バスの遅延も顕著である。本事業は沖縄県の主要観光地である北谷町美浜地区において交通結節点を実証的に整備し、バス、タクシー、レンタカーなど多様な交通手段を利用して次の目的地へ移動できるよう、2次交通結節点としての機能強化を図ることを目的としている。

02 プロジェクトの内容

名称：北谷ゲートウェイ 実証事業期間：令和6年7月25日(木)～令和8年3月末 ※予定

事業概要

- 沖縄県の実証事業として、約1,500台ある北谷町美浜駐車場のうち約250台分を使用し、観光2次交通結節点「北谷ゲートウェイ」を設置。令和6年7月25日の開所に併せて、那覇空港から同交通結節点への直行バスの運行(沖縄県による実証事業)、直行バスと接続した周辺地域を結ぶ周遊バスの運行等を行っている。
- その他、公共交通の案内が可能な交通アテンダントによる路線バス等を活用した観光案内の実施や、シェアサイクル、カーシェア等も設置している。
- また、令和7年9月1日からジャングリア沖縄及び沖縄美ら海水族館へ沖縄県による実証バスを運行し、主要観光地への接続強化を図り、観光客の移動利便性の向上を図っている。

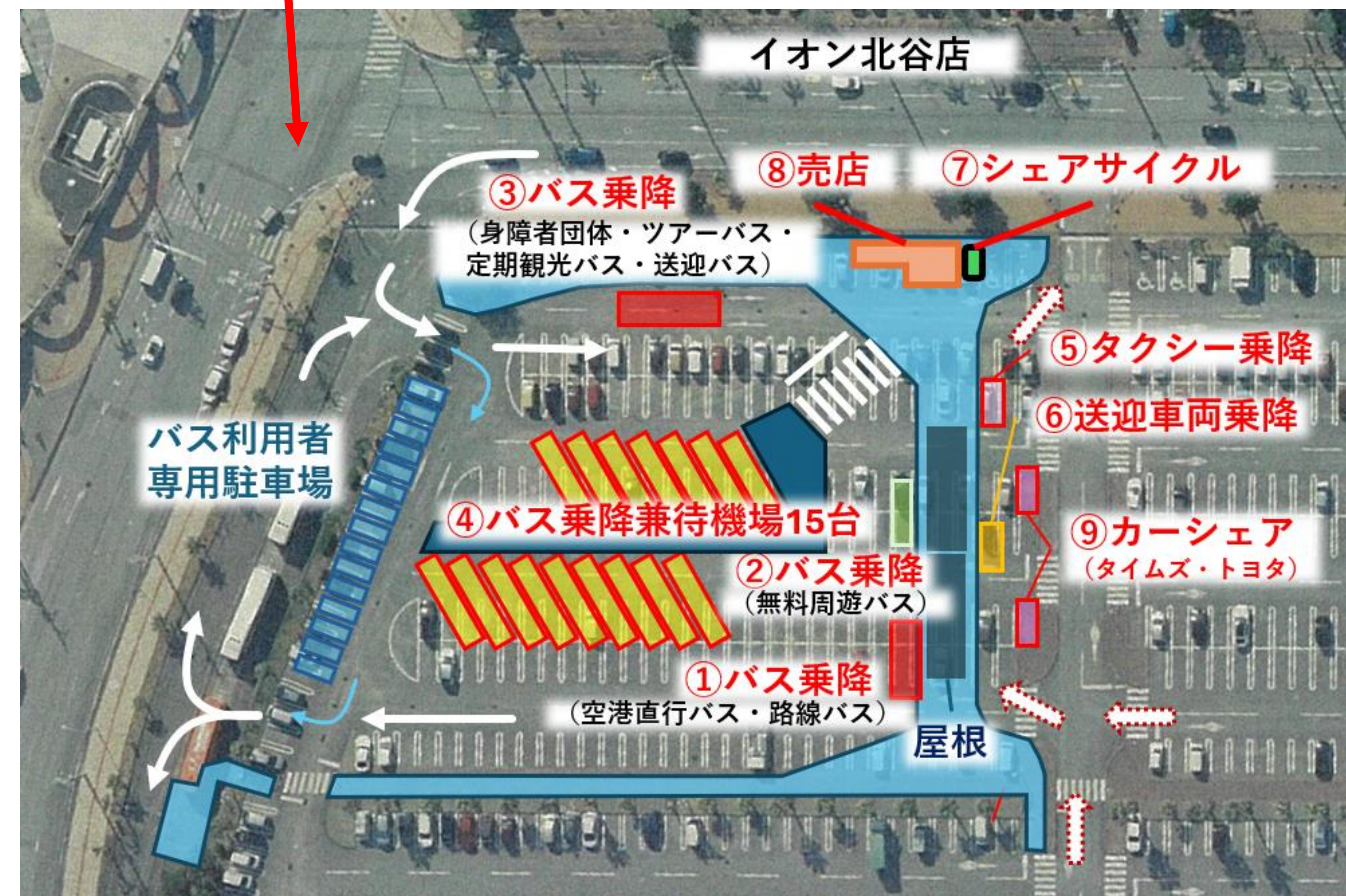
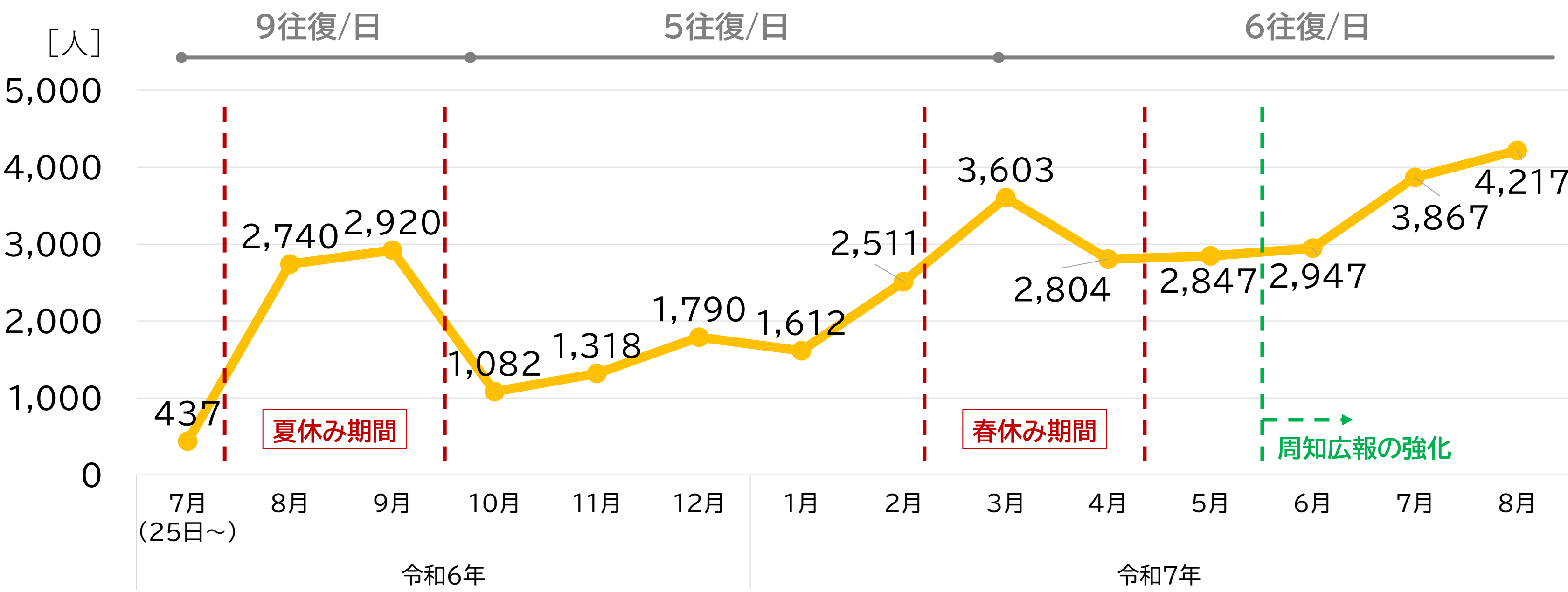
ターミナル機能

- ◆ 直行バス／路線バスのりば(1バス)
- ◆ シェアサイクル(6台)
- ◆ 美浜エリア周遊バスのりば(1バス)
- ◆ タイムズ／トヨタカーシェア(2台)
- ◆ バスおりば(1バス)
- ◆ 売店(交通アテンダントを配置)
- ◆ 貸切バス駐車場(約15台)
- ◆ バス利用者専用駐車場(要予約)
- ◆ タクシー／送迎車乗降所(2台)

乗り入れる交通サービス(令和7年9月初旬時点)

- <那覇空港からの直行バス> ※民間による運行
- ・東京バスTK05:6往復/日
 - ・沖縄バス空港リムジンバス:3往復/日
 - ・カーリー観光北谷ライナー:2.5往復/日
- <那覇空港方面からの路線バス> ※民間による運行
- ・沖縄バス43系統(豊見城営業所⇄北谷ゲートウェイ):0.5～2.5往復/日 ※曜日によって変動
 - ・沖縄バス143系統(那覇空港⇄北谷ゲートウェイ):6～7.5往復/日 ※曜日によって変動
- <その他> ※沖縄県による実証運行
- ・美浜エリア周遊バス:28便/日(約15分間隔)
 - ・北谷アドベンチャーハイウェイバス(ジャングリア・美ら海水族館):2往復/日

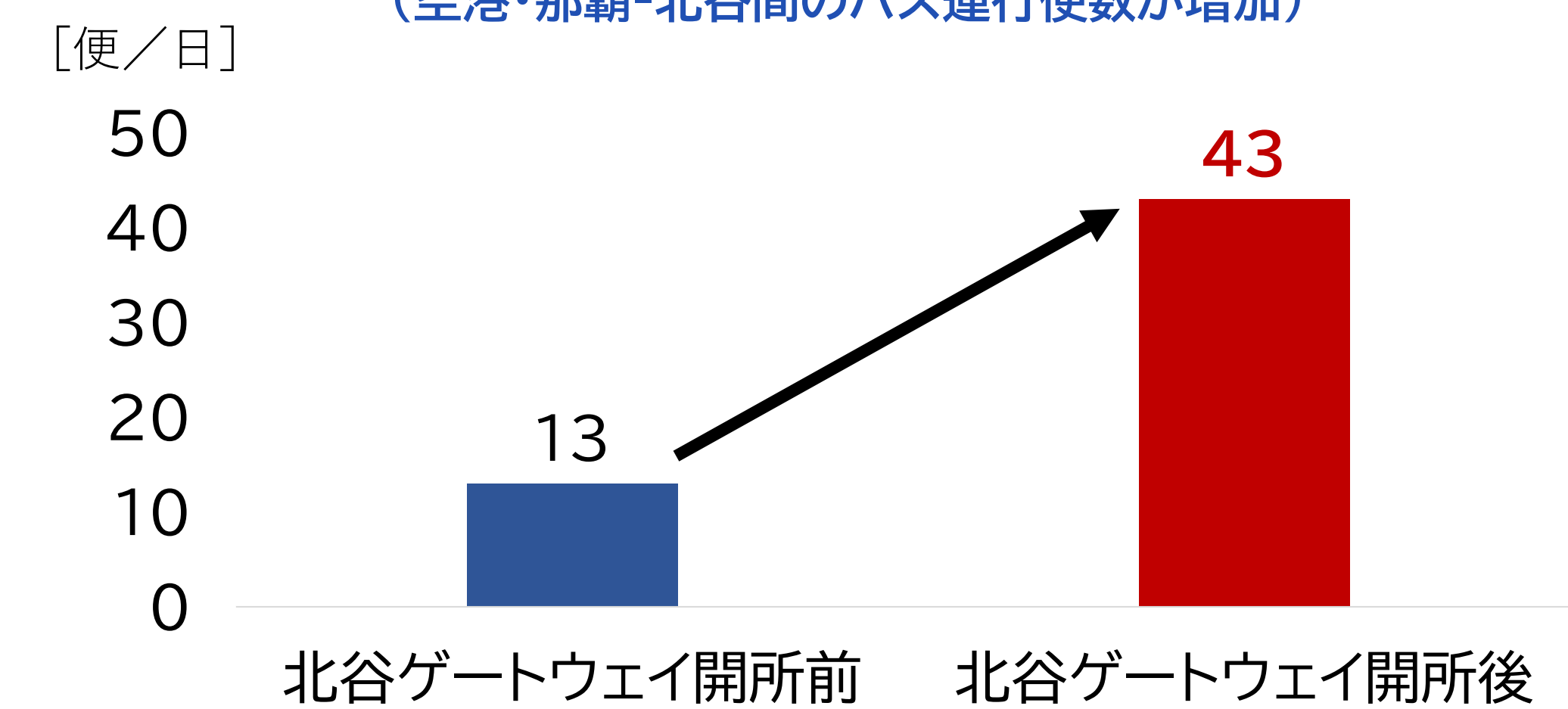
参考)東京バスTK05の月別乗車実績推移



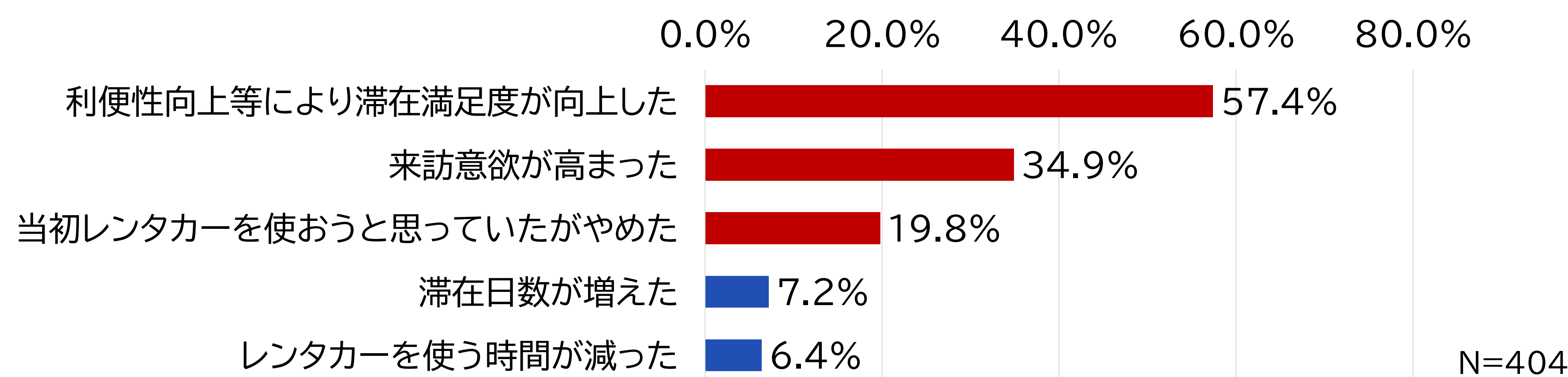
03 現時点での効果

- 北谷ゲートウェイ開所前は1日13便だった那覇-北谷(美浜エリア)間のバスは、北谷ゲートウェイ開所後に実証運行によって本数が増加し、令和7年3月より**空港・那覇-北谷間のバスについては民間バス事業者による自走化が実現**。
- その後、北谷ゲートウェイへの乗り入れを希望する既存路線バス事業者による乗り入れも合わせて、**令和7年9月時点では3社5路線(沖縄県実証を除く)、1日最大で43便(曜日により変動)が乗り入れ**ている。
- また、令和5年度・6年度に実施したアンケート調査からは、レンタカー利用者の減少とバス利用者の増加が確認できたほか、回答者の**約57%が「利便性向上等により滞在満足度が向上した」、約35%が「来訪意欲が高まった」と**回答しており、北谷町における観光にも寄与していることが確認できた。その他、回答者の**約20%が「当初レンタカーを使おうと思っていたがやめた」と**回答していることも確認できている。

①空港・那覇-北谷間の公共交通でのアクセス利便性が向上(空港・那覇-北谷間のバス運行便数が増加)



②北谷ゲートウェイができたことによる移動手段や観光プランの変化(R6年度に実施した北谷ゲートウェイ利用者(観光客)へのアンケート結果より)



04 今後の展望

本実証事業は令和7年度までを実証期間とする2か年の取組である。空港・那覇-北谷間については路線バス事業者による運行が開始されているため、令和7年度は沖縄本島北部等の主要観光地を結ぶバスの運行など、観光2次交通結節点の更なる強化と利用促進を図る。レンタカーによる移動が主である沖縄観光において、観光客が多様な交通手段を利用できる環境を整えることで、将来的には観光客の行動変容につなげられるようモデルとしての検証を進め、持続可能な観光地域づくり(誰もが快適に沖縄観光を楽しめるような旅行環境の形成)に寄与するよう取り組む。